

第1章 食堂の中の交差点 ー車いすのエスノメソドロジー2ー

林 佑香

1. はじめに

今回、当初のテーマ『義肢装具の相互行為分析』により調査を進めるうち、車いすを利用されている加勢賢一さん（仮名。ここでは施設名、人名などはすべて仮名表記する）と出会い、加勢さんの障害と車いす、加勢さんの日常生活・活動それぞれがどのように関わっているのか関心をもった。加勢さんにもご協力頂き、加勢さんの日常生活や仕事の活動を詳細に見ていく中で、身体の障害は加勢さんの活動にどのように取り込まれているか、また、加勢さんと車いすとの関係について分析を進めていきたい。

2. Z園について

ここで私達が調査を行ったA県T市にある社会就労センターセルフZ園について、施設の概要を説明しておく。Z園は、働く意欲と能力をもちながら、障害のため一般の企業に雇用されることが困難な人たちが入所し、必要な訓練と働く機会と場所を得て、作業訓練費により自活すること、将来の職業自立を目指す施設として、昭和 57 年に開園した。（Z園のパンフレット参照）

Z園は、作業所や職員室がある建物、食堂、入所者が居住する寮、の主に 3 つの建物が併設されている。それらの建物は廊下や通路によってつながっており、自由に行き来が出来るようになっている。寮の居室は2人部屋が25室あり（2004.7.29において。後2004.12.15に訪れた時は一部改装され、1人部屋で生活されている人もいた）、利用者定員は50名である。現在の入所者数は約50名、寮には入所せず、Z園に通っている通所者も50名ほどいらっしゃるとのことである。

入所の契約条件としては、①市町村より施設支援費受給者証の交付を受けている人②身体障害者手帳の交付を受けている人③団体生活に適応できる人④その他、入所を適当と認め、身体障害者福祉法の入所者の要件に該当する人、が挙げられている。

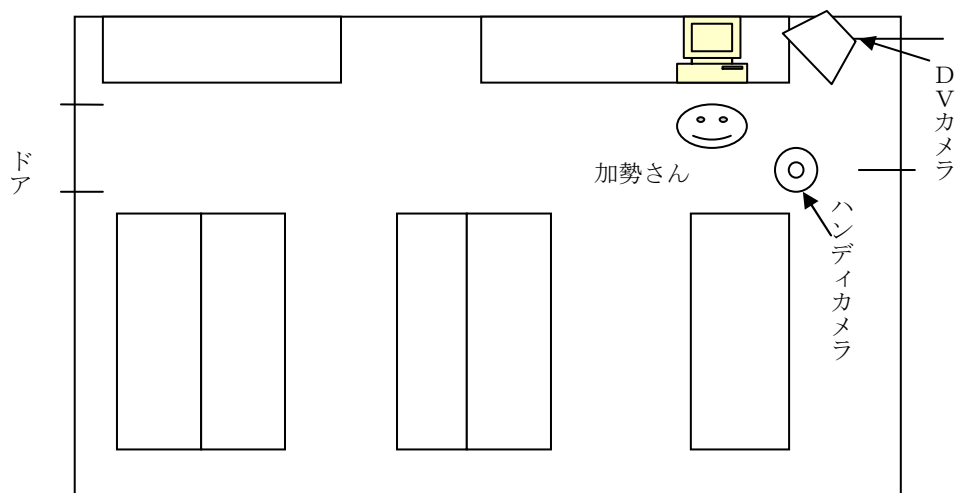
また、作業の内容によって、印刷科、軽作業科、表装科、レザークラフト科が設けられており、1人1つの科に所属し、作業を行う。作業部屋はそれぞれの科によって分かれている。給料はそれぞれの作業内容によって1人1人違い、固定給ではなく出来高払いとも言えるシステムである。

作業は9時から17時までで、12時から13時が昼休憩、15時から15分間小休憩がある。大体7時半頃から食堂で朝食、献立は一週間単位で決まっていて、栄養士さんによってバランスのとれたメニューが考えられている。また一週間の献立は食堂の外にある掲示板に貼られている。その後、掃除をし、朝礼、ラジオ体操を行ってから作業に入る。夕食は大

体 18 時頃からである。入浴時間は女性は 17 時頃から 19 時頃まで、男性は 19 時半からで入れ替わり制である。女性の中には作業終了後から夕食までの間に入浴する人も多いそうである。Z 園には大まかな規則はあるが、外へ出かけたたりすることなどは基本的に自由だそうである。よって近くのコンビニに出かける方も多いそうである。

3. 調査概要

A 県 T 市にある社会就労センターセルフ Z 園にて調査を行った。2004 年 7 月 29 日 (木) は加勢さんに日常生活や作業内容、義肢装具についてのインタビューを 1 時間ほど行い、MD による音声録音をした。翌月の 8 月 4 日 (水) は 8 時から 17 時過ぎまで、加勢さんに密着し、作業所や寮等での様子をビデオ撮影させて頂いた。また、2004 年 12 月 15 日 (水) に再び撮影を行った。ビデオカメラは計 2 台で、1 台は加勢さんが所属する印刷科の作業所に設置し、もう 1 台はハンディカメラとして使用し、加勢さんと一緒に移動しながら撮影した。ビデオカメラの配置図、作業所の配置図については、図 1 を参照して頂きたい。



【図 1：印刷科作業所の配置とビデオカメラの配置】

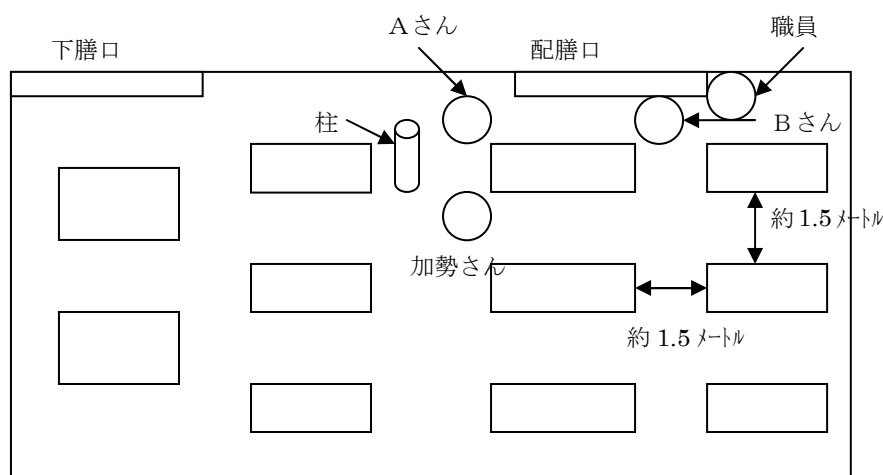
4. 加勢さん (仮名) について

加勢さんは現在 42 歳の男性で、Z 園には 19 歳の時に入所し、開園当初からなので約 22 年間併設されている寮で生活されている。病名は骨形成不全症。骨組織の形成障害が原因で、手足の長い骨や脊椎骨が折れやすくなる病気である。骨折などによって手足が変形していて歩行が困難なため、車いすを使用している。また、装具は保護目的として左足につけている。現在は印刷科に所属し、主には受注台帳をつけるなどの事務的な作業を行っている。8 月 4 日の作業内容はステープラーを止める、パソコン教室でのサポート、受注台帳

をつける、といったものだった。12月15日は、年賀状のレイアウトを校正する作業を行っていた。「この校正の作業はZ園では加勢さんしかできない」（職員A氏のコメントより）そうで、年末ということもあり、とても忙しそうだった。

5. 車いすにおける特有の選択肢と行為連鎖

Z園において、車いすを使用している方は加勢さん以外にもいる。それではこの施設内においての車いすとはどういうものなのか。それぞれの場面において、車いす使用者はどのような行動を適切と見なし、選択しているのか。車いす使用者の加勢さん、Aさん、Bさんの3人が行き交う場面について、それぞれの視線、行動に注目しながら詳細に見ていくことにする。場所は食堂である。3人の配置については図2を参考にいただきたい。



【図2：食堂における3人の配置図】

ここからは加勢さん、Aさん、Bさん3人が行き交う場面の流れを詳細に見ていく。なお、以下のデータは夏の撮影（2004.8.4）のデータである。

7:47:49AM、Aさんは視線を前方に向けたまま、前進し、徐々にスピードを落として止まる。この時視線は進行方向つまり、Bさんに向けられている。ここでは一度も加勢さんを見ていない。AさんはBさんからおよそテーブル1つ分の距離を取り、止まっている。Bさんは配膳口のところに止まっている。Bさんは7:47:48に配膳口の方に向けていた体をAさんの方向に向けるが、この時点では視線はAさんではなく、自分が持っているおぼろげな方向に向けられている。この時加勢さんは職員と会話している（7:47:44～7:48:01）。この場面でAさんがとる行動の選択肢として考えられるものは①前進する。②後ろに下がる。③右方向（加勢さんがいる方向）へ曲がる。④停止する。⑤加勢さんもしくはBさんに声を

かけ、どいてもらう。の5つが考えられ、Aさんは④停止する。を選択したことが分かる。ここで「選択肢」として取り得ると考えられるものは無限にあると言えるが、その場で期待される選択肢、有意味さを持つかどうかという点に注目し、記述している。Aさんは、加勢さんを見ていない、Bさんから一定の距離をあけて停止している、といった点から、テーブルと壁の間は2人がすれ違えるスペースがないと判断し、Bさんの出方、つまりBさんがこれからどういう行動をとるのか、前進するのか、しないのかによって次の自分の行動が左右されると考え、Bさんの行動を観察するために④停止する。を選択したと考えられる。(写真1参照。人の配置について、詳しくは写真2を参照して頂きたい。)

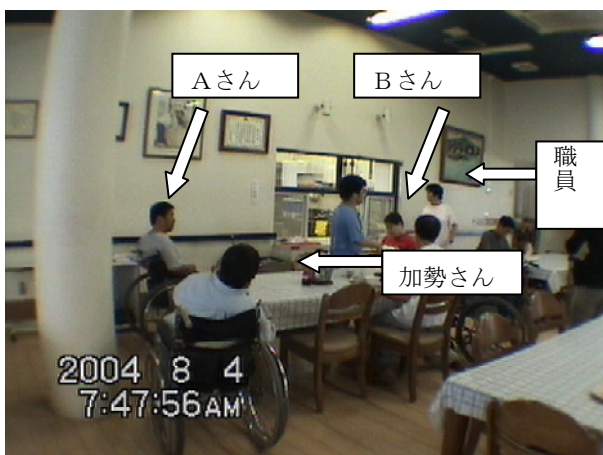


【写真1 : 2004.8.4 7:47:49AM】

加勢さん：停止した状態で職員と会話している。体の向き・視線は職員の方を向いている。

Aさん：速度を落とし、停止する。視線は前に向けられている。

7:47:56AM、加勢さんが職員と会話しながら少し後ろに下がって止まる。Aさんは視線を一瞬加勢さんに向け、また前を見る。ここでのAさんの選択肢として、前述した①～⑤が考えられ、Aさんは④停止する。を選択している。(写真2参照)



【写真2 : 2004.8.4 7:47:56AM】

加勢さん：職員と話をしている。体は職員の方を向いている。少しだけ後ろに下がる動きを見せる。

Aさん：一瞬加勢さんに視線を向け、その場で止まっている。

Bさん：おぼんを持っている。体はAさんの方向に向いているが、視線はおぼんに向けられている。

7:48:01AM、加勢さんが職員との会話を終え、前進し始める。体の向き・視線を職員から前方（Aさんの方向）へ向ける。ここでの加勢さんの選択肢として考えられるのは、①前進する。②後ろに下がる。③左方向へ曲がる。④右方向へ曲がる。⑤停止したままでいる。⑥Aさんに声をかけ、どいてもらう。であり、①前進する。が選択された。ここで、④右方向へ曲がる。という選択肢は、加勢さんがテーブルからやかんを取り（7:47:14AM）、下膳口まで運ぶ（7:48:20AM）という目的があるため、選択では優先されにくいと考える。（写真3参照）



**【写真3：2004.8.4
7:48:01AM】**

加勢さん：話が終わり、体の向きを前方に向け、前進し始める。

Aさん：止まっている。視線は前方のBさんに向けられたままである。

Bさん：体の向きはAさんの方向を向いているが、視線は自分が持っているおぼんに向けられたままである。

7:48:02AM、Aさんは前進し始めた加勢さんに視線を向け、後ろへ下がり始める。ここでのAさんの選択肢として考え得るのは、①前進する。②後ろに下がる。③右方向（加勢さんがいる方向）へ曲がる。④停止したままでいる。⑤加勢さんもしくはBさんに声をかけ、どいてもらう。であり、②後ろに下がる。が選択された。このことから、加勢さんが前進し始めたことがきっかけとなり、Bさんの出方をうかがうことである④停止したままでいる。ことより、②後ろに下がる。ことが優先されたと考えられる。（写真4参照）



【写真 4 : 2004.8.4
7:48:02AM】

加勢さん：前進する。体・視線は前（Aさんの方）を向いている。

Aさん：加勢さんに視線を向け、後ろに下がり始める。

Bさん：視線はおぼんに向けられたままである。

7:48:03AM、Bさんは視線を前方（Aさんの方向）に向け、前進し始める。ここでのBさんの選択肢として、①前進する。②後ろに下がる。③左方向へ曲がる。④停止したままである。が考えられ、Bさんは①前進する。を選択。視線が前方（Aさん）に向けられていることから、Aさんが後ろに下がっている状況を確認した上で、①前進する。が選択されたと思われる。



【写真 5 : 2004.8.4
7:48:06AM】

加勢さん：前進を続ける。

Aさん：後ろに下がる。

Bさん：視線を前方（Aさん）に向け、前進している。



【写真6：2004.8.4
7:48:07AM】

加勢さん：そのまま前進を続け、左（Aさんの方向）に曲がる。

Aさん：さらに後退を続ける。視線は前に向けられている。

Bさん：少しずつ前進する。視線は前方に向けたまま。

7:48:13AM、Aさんは加勢さんに視線を向け、加勢さんに何か話しかけながら（7:48:10AM）、いったん停止し、加勢さんとすれ違う。ここで、Aさんには、①そのまま後ろに下がり続ける。②いったん停止する。という選択肢が考えられ、②いったん停止する。が選択された。（写真7参照）



【写真7：2004.8.4 7:48:13AM】

加勢さん：前進を続ける。Aさんの左側を通り、すれ違う。この時笑顔でAさんと何らかの言葉を交わす。

Aさん：いったん停止し、加勢さんとすれ違う。加勢さんに視線を向け、何か声をかけている。

7:48:15AM、Aさんは視線をやや右後ろに向け、後ろに下がり始める。その後、右後ろを見て、前に視線を戻しながら後退を続ける。ここでは、Aさんにとって、①前進する。②さらに後ろに下がる。③停止したままでの。の選択肢があり得、②さらに後ろに下がる。が選択された。Aさんは後ろに下がっている間（7:48:02~7:48:13）も視線は前方（Bさんの方）に向けられていたことから、Bさんが前進していることを認識した上で、この選択がなされたと考えられる。



【写真 8 : 2004.8.4
7:48:15AM】

加勢さん：前進を続ける。

Aさん：やや右後ろに視線を向け、後ろに下がり始める。



【写真 9 : 2004.8.4
7:48:17AM】

加勢さん：そのまま前進を続け、持っているやかんを下膳口まで運んでいく。

Aさん：視線を左後ろに向け、後退する。

その後、加勢さんは下膳口でやかんを渡す (7:48:20AM)。Aさんは右に向きを変えて進む (7:48:25AM)。Bさんはそのまま前進を続ける。

以上のことから、車いす利用者が行き交う場面を詳細に見ていくことによって、一瞬一瞬の場面において、様々な選択肢があり、そのうちのどれか、その場面において適切だと思われる行為が選択されていることが分かる。そして、一人が選択した行為によってもう一人が選択し、行為する。お互いの選択・行為がお互いの選択・行為を決定づける要因となっているのである。そして、このことから、私たちが普段何気なく行っている行為、この場合は人と行き交うという行為の中で、同じように、様々な選択肢の中から適切だと思われる行為を選択して行い、それは相互的なものであるといえるのである。

ここで、3人が居合わせている場所を食堂の中の「交差点」と捉えてみてはどうだろうか。道路の信号がない交差点では、ほとんどの車がいったんスピードを落としたり、停止した

りしながら相手の出方を窺い、どちらが先に通るのかを決めてから動いていると考えられる。この、道路で見ることができる秩序が、食堂で、目に見えやすい場面として観察できるのではないか。そこで「3人が交差点に居合わせている」という視点から、3人が選択した行為、特に「止まる」「後ろに下がる」行為は、この場面においてどのような意味を持つのか、シーン別に考えていく。

シーン1「止まることの意味」について

加勢さんの場合：7:47:44～7:48:01、停止しながら職員と会話している。

Aさんの場合：7:47:49～7:48:02、停止している。この間は1度加勢さんが動いた時に加勢さんに視線を向けるが(7:47:56)、停止したままで、視線はほとんど前方(Bさんの方向)に向けられている。

Bさんの場合：7:47:48～7:48:02、視線は自分が持っているおぼんに向けられたまま停止している。

「止まる」「止まったままでいる」行為はどのような意味を持つのか。「止まる」行為自体はそれを行った人にとっての最終的な課題(目的地に辿り着く等)を達成することにはならない。しかし一方では「止まる」行為によって他の人の選択肢が広がり、相手に選択するチャンスを与えることになる。また、「止まる」という行為は常に選び得ることができ、「前に進む」「後ろに下がる」行為よりも優先されやすい行為とも考えることができる。ここで注目したいのは、止まっている間のふるまいである。Aさんは視線をBさんに向けていたり、加勢さんに向けていたりしていることから、他の人の出方を窺っていることが分かる。加勢さんは職員と会話していて、Bさんは視線をおぼんに向けている。止まっている間に別の業務を行っていることから、一見課題達成できないと思われる「止まっている」行為を意味のあるものとして、また自分が止まっていることの理由説明として(それが本当の理由とは限らないが)、相手に示していると考えられる。

シーン2「後ろに下がることの意味」について

Aさんが2度後ろに下がる場面に注目する。1度目は、加勢さんが前進し始め、その1秒後、それを見たAさんは後ろに下がり始める場面(7:48:02)である。2度目は、いったん停止して加勢さんとすれ違った後、再び下がり始める場面(7:48:15)である。

Aさんは右後方、左後方を振り返りながら下がっており、「後ろに下がる」行為はAさんにとって少なからず危険な行為であると認識されているといえる。「後ろに下がる」行為は危険であり、行為者の目的達成にはならないが、下がることによってスペースが広がり、また他の人の選択肢も広がる。それに対して「前に進む」行為はスペースが狭まり他人の選択肢が減るが、目的に近づくといえる。

ではどうしてAさんはこの場面において、2度にわたって自分の目的にかなわず、危険であると見なしている「後ろに下がる」行為を適切であると見なし、選択したのか。ここで

考えられるのが交差点の秩序である。この場面において、加勢さんとBさんは交差点の手前で止まっているが、Aさんは交差点の真ん中で停止していることになる（図2の配置図参照）。またこの交差点は配膳口の近くであり、人通りが多い交差点であることが予測できる。交差点の真ん中で停止するとはどういうことなのか。Aさんが停止している間Bさんの様子を窺っていたこと、加勢さんが少し後ろに下がった時、瞬時に視線を向け反応していたこと、加勢さんが前に進み始めた1秒後には後ろに下がり始めていることから、Aさん自身が自分が止まっている場所に違和感を持っていたと考えることが出来る。また、加勢さんは会話を終えると同時に（Aさんの様子を窺うことなく）前に進んでいるし、Bさんは前方にAさんが停止し、自分に視線を向けているにも関わらず停止したままでおぼんに視線を向けている。このことから次の行為について、誰に優先権があるかということは、この交差点で誰がどの位置にいるのか、場所が意味を持っているといえるのである。

6. おわりに

以上、車いすが行き交う場面を、食堂の中の交差点という視点から、そこで何が起きているのかを詳細に見てきた。そして車いす利用者の相互行為場面を通して、連鎖的で順番的な秩序が観察できたように思う。

また、山崎敬一ら（1993）による〈車いす利用者〉の購買場面の分析を受け、今回交差点の秩序に注目して分析を行ったことから、本稿のサブタイトルを「車いすのエスノメソドロジー2」とした。

参考文献

- 岡田光弘 1995 「相互行為場面における身体とカテゴリー——身体の社会学としての購買場面のエスノメソドロジー的相互行為分析——」『Sociology Today』6：27-38
- 山崎敬一・佐竹保宏・保坂幸正 1993 「相互行為におけるコミュニケーションと権力——〈車いす使用者〉のエスノメソドロジー的研究——」『社会評論』44→山崎敬一・西坂仰編 1997 『語る身体・見る身体〈附論〉ビデオデータの分析法』、ハーベスト社：59-79